

新宮山彦ぐるーぷ第2112回

浦向道の部分改良

◇実施日… 2021年1月16日(土) 曇り後小雨

◇参加者… 山川治雄、梶野照雄 2名

山川さんから電話があり「浦向道、林道のすぐ上のトラバース個所にロープを張る用意をしている」という。毎年の浦向道巡視の際に、ここは危ないと感じられて今年の巡視までに安全策を講じたことだった。13日に予定していたが山川さんの都合で16日の実施となった。



標識を追加

階段を登る

ノコで枝先切除

朝9時前に下北山村役場を出発、前日は雨が降ったのでR425の積雪も殆ど溶けていたが、日陰のカーブや橋の上に若干の雪が

残っていた。山川さんの軽トラは夏タイヤなので、ゆっくり通過。万が一のために、私は後ろを走った。登山口を過ぎて浦向道合流地点まで進む。林道にも積雪の残った場所があったが、路面が舗装ではないので、スリップすることは無かった。



張り終えたロープ

トンガで削る

登山口の水場

浦向道の降り口に標識を追加して、鉄杭やロープを持って階段を登る。5分程で補修場所に着く。枯れた木が一本倒れて障害になっていた。車にノギリを取りに戻り、枝先を切除した。次回の巡視の際に根元から切除の予定。トラバースの部分に鉄杭を4本打ち込みロープを張る。その上にも立木を利用してロープを張って25m位の長さにロープを取り付けた。トンガで山側を少し削り、横切っている木の根を切断して登山道の安全確保を行った。山川さんは「まだ上の方にも危ない場所があったように思う」と言うが、45分登ってもそれらしい場所は見当たらず、改良作業

終了とした。

登山口まで戻って水場の確認に向かう。階段横、ホース先のバケツには氷が張っていたが、水場のバケツは凍っていなかった。少ないながらも水の流れはあるが、樋に流れ込んでいるのは水流の半分にも満たない量で、大半が外に流れてしまっている。取水口の岩の形状がダムのようになっていて、外側に流れる量が多いことが原因のようだ。岩を割って中央に流れるようにすると改善が期待できると思う。



登山口の水場

登山口の残雪

浦向の三差路迄戻って、前を走っていた山川さんが停車。「急ぎでなかったら、熊野で焼肉」と言われ、急いで帰る用も無いし、まだ12時なので山川さんの後をつけて熊野まで行った。浦向から熊野まで50分程だった。山川さんの山荘で焼肉をご馳走になり、帰りは新宮経由R168で帰宅した。

翌日夜に山川さんから電話で「岩本さんと二人で登山口の

水場に行って、岩を削ってきた。8割位が樋に流れ込むようになった」と報告があった。(記；梶野)

行動タイム

役場駐車 08:50→09:40 浦向道合流地点 11:15→11:22 登山

口 11:37→12:08 浦向三差路